

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：32675
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：20K00985
研究課題名（和文）戦後沖縄学の知的連関と国際的文脈の追求：仲原善忠史料を中核とする実証的再構成

研究課題名（英文）Empirical Reconstruction of Postwar Okinawan Studies:Pursuing International Relations and Intellectual Linkage around Nakahara Zenchu Papers.

研究代表者
大里 知子（Ozato, Tomoko）
法政大学・沖縄文化研究所・准教授

研究者番号：20794506
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題の目的は、戦後の在本土沖縄人の指導者だった沖縄学研究者・仲原善忠が所蔵していた史料群を中核として、更に関連する史料の調査・収集を重ね、戦後の沖縄学に関するアーカイブを構築し、その分析によって沖縄学の歴史的系譜に関するこれまでの知見を刷新することにあった。これらの取り組みの結果、沖縄学の創始者である伊波普猷に続く、後継世代の代表的人物の一人である仲原善忠に関する業績と沖縄学における位置づけを検証することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの沖縄学研究は「沖縄学の父」とされる伊波普猷を中心に論じられてきたが、本研究は戦後初期沖縄学の中心的な人物である仲原善忠に関する史資料を柱に据え、史料整備及びその分析を行った。これにより、在本土沖縄人のネットワークのなかで築かれた沖縄学の内実と、それらが沖縄に住む人びとと、どのような交流を持ちながら互いに影響を与えていたのかが明らかになった。このことは、単なる一地域の研究としてのみでは捉えられない沖縄学に関する研究の重要性をあらためて示すことになった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research project was to construct an archive of postwar Okinawan studies by repeatedly investigating and collecting related historical materials based on the historical materials held by Zenchu Nakahara, a researcher of Okinawan studies who lived on the mainland of Japan after the war, and to renew the knowledge of the historical genealogy of Okinawan studies through its analysis. As a result of these efforts, we were able to verify the achievements of Zenchu Nakahara, one of the representative figures of the successor generation following the founder of Okinawa studies, Fuyu Iha, and his position in Okinawa studies.

研究分野：沖縄近現代史

キーワード：沖縄学 沖縄近現代史 戦後沖縄学アーカイブ 仲原善忠

1. 研究開始当初の背景

1900年代初頭からはじめられた民俗学、歴史学、文学などの諸分野から沖縄を多角的に研究しようとする動きは、後に「沖縄学」と称されるようになり、日本における沖縄の位置づけや沖縄の人々のアイデンティティーの模索と深く結びついた学問として、主に「沖縄学の父」とされる伊波普猷を中心に論じられてきた。

一方、沖縄における人々の営みを壊滅させた沖縄戦、それに続く米軍の支配という状況の下、日本と分断された沖縄の現状を世に知らしめ、沖縄の復興と日本への復帰を果たしたいとの思いを礎に再興された戦後の在本土沖縄人による沖縄学の取組みについてはこれまで詳しい研究がなされてこなかった。

2000年代に入り沖縄学の問い直し、また沖縄学が従来特徴としてきた学際的性質に着目し、新たな沖縄学を追究する試みがなされてきた。と同時に、地域研究のケーススタディとして沖縄を対象とした民俗学、文化人類学などの研究成果も数多く蓄積されてきた。しかしその一方、「沖縄学」の歴史的な流れを捉え、現在の研究がその中でどのように位置づけられるかという視点は希薄になっていた。

以上のような研究上の課題に取り組むため、本研究は、戦後初期沖縄学の中心人物の一人である仲原善忠に関する史資料を柱に据えた分析を通じて在本土沖縄県人ネットワークの中で築き上げられていった戦後の沖縄学の内実と、それらの取組みが沖縄に住む人々とどのような交流をしながら互いに影響を与えあっていたのか明らかにすることを目的としたものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、戦後の在本土沖縄県人の指導者だった沖縄学研究者・仲原善忠が旧蔵した新発見の史料群を中核として、関連する史料の調査・収集を重ね、戦後の沖縄学に関するアーカイブを構築し、その分析によって沖縄学の歴史的系譜に関するこれまでの知見を刷新することにある。

これまで沖縄学についての評価は、主に、創始者である伊波普猷を対象として分析・批判がくり返されてきた。しかしその一方、戦後に沖縄学を総合的な地域研究へと継承発展させる役割を果たした後継世代についての検証はほとんどなされてこなかった。そこで、本研究においては、沖縄学の国際的な展開に重要な役割を果たした仲原善忠の史料を柱として、戦後の沖縄学に関わる史料を体系化し、沖縄学に関する研究の深化を目的とした。

3. 研究の方法

本研究は仲原善忠が旧蔵していた一次史料を中核にして沖縄学に関する史料体系を構築し、それらの分析により、これまでの沖縄学に関する研究蓄積に新たな知見を加えることを目的とした。

この目的を達成するために、まず、新たに所在が確認され、法政大学沖縄文化研究所に寄託された仲原善忠史料群について整備し、アーカイブ構築作業に取り組んだ。具体的には、史料の分類、クリーニング等の保存に適した処置を施しつつ目録の作成を進めた。また、アルバム写真、辞令書などを中心に一部の史料は撮影しデジタル化を行い、データベースに組み込んだ。これらの作業と並行して、琉球大学附属図書館所蔵の仲原善忠文庫の調査をするとともに、沖縄県立図書館や沖縄県公文書館において、比嘉春潮文庫、湧川清栄文書、吉田嗣延文書など関連資料の収集を行った。

以上のような作業を通して利用可能が可能となった仲原善忠史料と、集積した沖縄学関連の史資料を分析することにより、沖縄学に関する研究の進展に努めた。

4．研究成果

本研究における研究成果の主なものは以下の通りである。

(1) 沖縄学の進展に向けた基礎的環境の整備

新発見された未整理の仲原善忠史料の整備作業により、目録の作成とアーカイブの構築が進み、歴史的な分析が可能となった。これらの成果の一部については、萩原真美、大里知子、綱川恵美により、目録及び資料翻刻のかたちで『沖縄研究資料 仲原善忠資料 著書論文目録・家族制度の主張』『わか葉』(2021年、法政大学沖縄文化研究所発行)に収録した。内容は以下の通りである。「仲原善忠著書論文目録」：これまで『仲原善忠全集』等に掲載されていた著書・論文180点に、本研究によって新たに確認された未発表原稿等を含む77点を加えたことで仲原の著作目録を大幅に改訂し、業績の実態を明らかにすることができた。「家庭制度の主張」：仲原が広島高等師範学校在籍時に執筆した未発表原稿の翻刻と解題。仲原は、この頃すでに『琉球新報』に論考を連載するなど、沖縄県内での論壇デビューを果たしていたが、同時期に執筆された卒業論文から当時の思索のあり様を知る事ができる。「わか葉」：仲原が青島中学校在職中に発表した句が掲載されている句集の影印と解題。これまであまり注目されてこなかった、仲原の創作活動について検討することが可能となる貴重な作品である。本書の刊行によって、仲原に関連する沖縄学研究の進展に向けた基礎的な目録と資料が提示され、重要な成果を上げることができた。

(2) 代表者・分担者各自の研究成果の発表

本研究課題の代表者・分担者は、各自の調査・研究による成果を、論文や報告のかたちで発表した。そのうち、主立った2点の論文についての研究成果は以下の通りである。大里知子：沖縄学における仲原善忠 仲原の初期論考「沖縄人と新道徳」の検討(2023年『沖縄文化研究 51号』所収)。本稿では、仲原善忠が沖縄学の先人としてどのように位置づけられ、その沖縄学の特徴はどのように捉えられてきたのか、これまでの仲原善忠論を整理した。また、本研究によって整備した仲原の「新史料」によって、従来の「年譜」の内容を補完しつつ、仲原の戦前までの足跡をまとめ、そこから提示し得る、新たに沖縄学を考察するにあたっての論点をまとめた。本稿は、これまで伊波普猷をはじめとする沖縄学を担ってきた人々の思想的な変遷が研究されてきたのと同様に、今後、仲原善忠の思索の移り変わりを追うための基盤を提示し得たものとする。萩原真美：占領下沖縄の中学校社会科歴史副読本『琉球の歴史』の誕生 その経緯に着目して(2023年『沖縄文化研究 51号』所収)。本稿では、米軍占領下沖縄の中学生用の社会科副読本として琉球文教図書株式会社より刊行された、仲原善忠著『琉球の歴史』が、約30年にわたり重版され学校現場で活用されたことから、同書が占領下沖縄の社会科・歴史教育に与えた影響に着目し、これまで解明されてこなかった『琉球の歴史』刊行の経緯とその意義について明らかにした。その際、「新史料」に含まれる、仲原自身による『琉球の歴史』の原稿への書き込みなどの一次史料の分析なども行い、仲原が中学校の教科書としての役割を超え、広く沖縄の人びとに読まれることを意図していたこと、結果的に同書が長きにわたり多くの人びとの目に触れ、その歴史観に少なからず影響を与えた可能性について指摘した。以上のように、仲原善忠史料を中心に据えた実証的研究を行うことで、沖縄学や戦後の沖縄における教育・文化に関する新たな知見を加え、今後の沖縄学及び沖縄の戦後史研究の進展に寄与することができたものとする。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大里知子	4. 巻 51号
2. 論文標題 沖縄学における仲原善忠－仲原の初期論考「沖縄人と新道徳」の検討	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 沖縄文化研究	6. 最初と最後の頁 77-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 萩原真美	4. 巻 51号
2. 論文標題 占領下沖縄の中学校歴史読本『琉球の歴史』の誕生 その経緯に着目して	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 沖縄文化研究	6. 最初と最後の頁 47-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 萩原真美	4. 巻 2022年度
2. 論文標題 占領下沖縄群島における新制中学校の設立に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 財団創設70周年記念 野間教育研究所調査教育研究論文集	6. 最初と最後の頁 9-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 萩原真美	4. 巻 No.448
2. 論文標題 沖縄近現代史コラム 子ども：自分の名前が書けない人の戦後	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊社会運動	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 萩原真美	4. 巻 2021年度
2. 論文標題 占領下沖縄における戦後初の小学校教育実習 - 沖縄文教学校・同附小が果たした役割	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教職実践センター年報	6. 最初と最後の頁 214-225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 戸邊秀明
2. 発表標題 沖縄現代史教育の課題と可能性
3. 学会等名 東京学芸大学史学会(招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 小泉 悠、鶴岡 路人、萩原真美ほか	4. 発行年 2022年
2. 出版社 自由国民社	5. 総ページ数 352
3. 書名 現代用語の基礎知識 2023	

1. 著者名 古波蔵契、萩原真美、大里知子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ポーターインク	5. 総ページ数 232
3. 書名 つながる沖縄近現代史	

1. 著者名 萩原真美 大里知子 綱川恵美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法政大学沖縄文化研究所	5. 総ページ数 126
3. 書名 仲原善忠資料 - 著書論文目録・「家庭制度の主張」・『わか葉』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中俣 均 (Nakamata Hitoshi) (60135895)	法政大学・文学部・教授 (32675)	
研究分担者	戸邊 秀明 (Tobe Hideaki) (90366998)	東京経済大学・全学共通教育センター・教授 (32649)	
研究分担者	古波藏 契 (Kohagura Kei) (90834606)	明治学院大学・社会学部・研究員 (32683)	
研究分担者	萩原 真美 (Hagiwara Mami) (90849316)	聖徳大学・教職研究科・准教授 (32517)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------